

(3ページから続く)
きる可能性が広がりますね。

基礎力という観点で言えば、学生さんが学ぶ英語で十分だと思います。伝えたいことが話せるようなレベルでまずは大丈夫だと思います。ファイザーにも英語を母国語としない人がたくさんいるわけですが、いろいろな人とコミュニケーションするための共通言語としてのツールが英語であるということにすぎません。

そうすると、みんなで分かりやすい英語表現を選んで話すようになりますから、それほど難しく考える必要はないのかなと思います。英語を上達させるには、自分の好きなものに関連付けるのがいいのではないのでしょうか。聞いた英語をそのまま口に出す「シャドーイング」や、英語を聞きながら聞こえてくる英語を一語一句残らず書き取る「ディクテーション」を行うとスキルがグンと上がると思います。自分の発音が拙いからといって恥ずかしがる必要はありません。正確な発音もそうですが、自分の伝えたいことをちゃんとと言えることはとても大切です。また、スマホアプリなど、語学を学べる機会はあふれています。

もっとも、私が一番語学力を向上さ

せた時期は、上司がアメリカ人になった時ですから、使わざるを得ない状況

に追い込まれたら自然と話せるようになると思いますね(笑)

「考えること」を止めないで

——最後に、薬学生へメッセージをお願いします。

学生生活は楽しいですよ。十分に満喫してください。何でも一生懸命やっておくと、きっといい思い出になります。会社を辞めて大学に入り直す人だっているし、やりたいことをやるのに早いとか遅いとかそういうことはありません。あの時やっておけば良かったのではなく、「やってみよう」とポジティブに考えて思い立ったら行動してみるといいですよ。

薬学部が6年制になって、即戦力を養成しようと実践的なカリキュラムが増えていると感じます。しかし、基礎の教育はそんなに変わっていないのかなとも思います。6年制になったという意味では知識も増えていて、実技も増えているわけなので、4年制の当時と比べてアドバンテージはあるのではないかと思います。

す。あと、どのような道に進んだ後でも、「考えること」を止めないで下さい。社会人になると学ぶことばかりで、仕事は経験を積むことである程度はできるようになります。しかし、現状に満足して、そのまま考えることを止め

てしまうと、学生時代のように教えられたことをそのままやる状態になってしまいます。自分の成長がそこで止まってしまうんです。「なぜだろう」「どうしてこの方法なのだろう」「もっといい方法はないのか」と自分に問いかけたり、考えたりする訓練は学生のうちにしておく、将来にもつながるし、社会に出て自分から提案できるようになったりしますので、きっと役に立ちます。ぜひ充実した学生生活を送って下さい。



対談を終えて

臨床の現場で仕事をしていると様々な疑問に遭遇しますが、大学で学んできた知識だけでは、どうしても解決が難しい疑問も少なくありません。

臨床で遭遇する疑問は、背景疑問と前景疑問という二つのタイプに分けることができます。

背景疑問とは例えば、降圧薬のアムロジピンがどのようなメカニズムで血圧を下げるのか、という薬理作用に関する疑問や、どのようにして血糖値が上がるのかという病態生理学に関する疑問のことです。背景疑問は、自分が知らないだけで、既に分かっていることに対する疑問であり、教科書などを参照に解決できます。

しかし、目の前の高血圧患者さんがアムロジピンを服用することでどれだけ長生きできるのかという疑問は、薬理学や病態生理学の教科書だけではなかなか解



医療法人徳仁会中野病院薬局 青島周一

これから「薬」の話をしてしよう

E B Mへの誤解

決できません。このように将来起こり得ることに関する患者個別の疑問を前景疑問と呼びます。背景疑問と異なり、明確な答えが存在しているわけではないので、そう簡単には解決できない、というわけです。

こうした前景疑問に向き合うための方法論の一つがE B M (Evidence-based Medicine: 根拠に基づく医療) と呼ばれる行動スタイルです。E B Mは①疑問点の明確化②疑問点についてのエビデンス収集③エビデンスの批判的吟味④エビデンスの患者への適用を検討⑤一連の流れの再評価——という五つのステップで成り立っています。

E B Mに対する誤解として、よく耳に

するのがステップ④への誤解です。“根拠に基づく医療”という、患者の価値観や思いなどをまるで考慮せず、医学的な妥当性だけで臨床判断する行為(つまりエビデンスの押しつけ)と捉えられてしまうことも多いのです。

しかし、E B Mのステップ④は、エビデンスのみならず、患者さんの価値観、患者さんを取り巻く状況、さらに医療者の経験を統合して臨床判断を行うものです(PMID: 12052789)。「E B M=エビデンス」という誤解もよく耳にしますが、E B Mとはエビデンスそのものではありません。エビデンスの使い方に関する方法論なのです。

薬学生に特化した就職サポートサイト「メディキャリ」リニューアルオープン!!



「メディキャリ」は、新卒求人情報やインターンシップ情報などを含めた就職サポートサイトです。就職に関するあらゆる情報はもちろん、企業情報や「国試に関する情報」も見ることができます。

インターンシップサイトにて東京大学客員教授澤田先生のスペシャルコラム公開中!!

薬剤師のキャリア支援サイト **メディキャリ**

〒530-0014 大阪府大阪市北区鶴野町1-9梅田ゲートタワー11F (メディセレ内) TEL: 06-6371-6123

